令和７年度　コシヒカリ栽培こよみ

みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

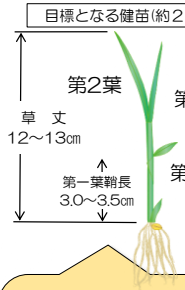
重点対策　①土壌改良資材の継続的な施用　②初期茎数の確保　③生育に合わせた水管理　④生育・気象状況に応じた穂肥施用　⑤適期防除

	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	5	15	25	5	15	25	5	15	25	5	15	25	5	15	25	5	15	25
生育		浸種	播種	育苗期	田植	活着期	有効分げつ期			無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期			成熟期	

作業日程の目安

- 土づくり
土改材は適正量以上(※1)。有機物の積極的な施用で化学肥料の低減を！

目標となる健苗(約2.5葉)



健苗を植えて初期茎数を確保！
- 苗規格：2.5葉(成苗)
- 植付け本数：3～4本
- 栽植密度：70株/坪
- 植付け深さ3～4ｃｍ

田植え → 除草剤散布 → 溝掘り → 中干し → 加里散布 → 一斉草刈り → 必要に応じた穂肥の施用 → 防除① → 防除② → 適期刈取り

防除①前までに、草刈りは必ず完了させましょう！！

5月15日を中心とした田植と適切な水管理で初期茎数の確保を！

	6/1	6/10	6/28	7/12	出穂期	最長稈長
茎数(本/株)	7	14	25	23	18	17
草丈(cm)	26	31	51	74	108	87
葉色	4.0	4.3	4.2	4.0	4.3	

※砂壌土は4.5

高温が予想される場合は、こまめな水管理を

重要
●適正な乾燥速度で水分を均一に！
紙　袋　14・5%～15・0%
フレコン　14・0%～14・5%
仕上げ水分に要注意！

水管理

5(cm)
4
3
0

軽い田干し
落水＋溝掘り

田植後4週間までに開始

7月に入ったら干しすぎない

出穂後20日間は田面を出さない

耕起・代かき | 深水 | 活着後、やや浅水 | 中干し期間 | 間断かん水 | 飽水管理 | 湛水管理 | 間断かん水 | 収穫5～7日前に落水

土づくり資材の施用基準（10a当たり）※1

土壌改良資材
- 珪酸石灰　１６０～２００kg
- シリカパンチＦ　１２０kg
- アサヒニューテツ　１６０kg

＋

有機質資材
- グリーンウェイブ２　６０kg
- 発酵ケイフン　７５kg（春施用基準量）
- 牛ふん堆肥　１ｔ（春施用基準量）

適正な基肥量の施用

一発肥料(側条施用)の場合

Ｊコートコシヒカリ１号または２号
３８kg/10a

苗箱施薬（使用量:５０g/箱）
※密苗の場合の使用量:１kg/１０ａ

田植前3日～当日に苗箱施用
（播種同時処理も可能）

ヨーバルプライムEV箱粒剤

適用病害虫：いもち病、紋枯病
イネドロオイムシ、ニカメイチュウ

除草剤との間違いに注意！

除草剤の体系

●散布後５日間は湛水状態を保ち７日間は落水しない！
※散布前に軽い田干しを行うと、薬剤の拡散に効果的

一発処理：プライオリティ１キロ粒剤（田植後5日～10日）
または
体系処理：かねつぐ１キロ粒剤（田植当日～4日）
→ どちらか
- 田植後11日～20日：プライオリティ１キロ粒剤
- 田植後１５日以降：アクシズMX１キロ粒剤

●上記の除草体系でも残草がある場合

ノビエ・広葉雑草　両方に効果が高い！
- レブラスジャンボ
- トドメバスMF液剤
- ロイヤント乳剤

広葉専用
- バイスコープ１キロ粒剤

ノビエ専用
- トドメMF１キロ粒剤

病害虫防除

２回防除で病害虫シャットアウト！

基本防除

ドローン・乗用管理機等

１回目 走り穂　７月下旬
スタークル液剤１０
＋
モンカットフロアブル
（ウンカ類、紋枯病、カメムシ類）

２回目 穂揃期　８月上旬
ラブサイドＫ２フロアブル
（いもち病、カメムシ類）

次年度に向けて

秋耕
①稲ワラの腐熟促進
→ワラ・ヒコバエを腐植へ
→春先のワキ(ガス)の防止
②春耕の効率化
→作土深の確保
③漏生稲の発生防止
④鳥・獣のエサを減らす

土づくり
牛ふん堆肥　１～２ｔ
発酵ケイフン　150kg(秋施用)
（10a 当たり）